

令和8年3月31日

愛国学園保育専門学校
校長 船田鈴子 殿

愛国学園保育専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

令和7年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①野崎 郁弘 (パブリックコンサルタント株式会社専務執行役員 元会計検査院官房審議官 元青山学院大学客員教授)
- ② 谷 聖司 (上一色幼稚園園長)
- ③森田 育栄 (卒業生 なでしこ保育園園長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

第7回委員会 令和8年3月12日 (会場 愛国学園保育専門学校 会議室)

3 学校関係者評価委員会報告 別紙のとおり

別紙

I 重点目標について

1 重点目標について

本校は「親切正直」を校訓とし、職業人として必要な知識・技術を有し、もって地域社会に貢献できる人材の育成を目指している。

自己評価報告書には、重点目標と計画の達成状況が的確に示されており、適切に評価されている。また、重点目標に掲げた事項について、各目標に沿った活動を着実に実施している。このような取組は今後も継続的に実施し、引き続き保育分野における人材確保、保護者が預けたい保育人材の育成に努力していただきたい。

各重点目標に関しての意見は、次のとおりである。

重点目標1の教育、研究における事項について、(1) 幼児教育科については、計画に従い適切に実施されている。重点目標・計画の達成状況も、個別の各事項の目標に対する達成状況と取り組むべき課題について、その対応関係が明確に把握できるように構成・記述の改善が図られている。引き続き、重点目標・計画の達成に向けて活動されることを期待する。なお、(2) 介護福祉士専攻科については、これを令和7年度末で廃止する旨を自己評価報告書提出後の後発事象として説明を受けた。介護福祉士専攻科は平成27年度の募集停止から10年を経過しており、専任教員の確保や実習施設・設備等の整備などに課題があるとのことから、これを廃止するとの判断はやむを得ないものと思料される。

重点目標2の学生の募集活動に関する計画について、自己評価報告書の記述に加え、本評価委員会における先生方の説明からも、課題をしっかりと認識し、AO入試を導入・拡大するなど積極的な対応に努めている姿勢は高く評価できる。少子化の影響の中で学生の募集については引き続き厳しい状況が続いているが、大学卒、短大卒の受験者に対応する履修単位の認定を検討するなど幅広い志望層の掘り起こしを図り、一層の定員の確保に向けた努力を継続されたい。

重点目標3のその他の事項については、保育者に就くことを前提とした校外研修を実施し、また、年に8回ほど子育て応援新聞を発するなど地域と連携、協力しながら適切に実施している。

II 各評価項目について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

教育理念である「親切・正直」「女子の職業教育」は明確にされており、それに基づく方針や目標設定があり、目標達成のための具体的な取り組みが行われている。評価委員会でのヒアリングからは、質の高い保育を目指し、自ら考え、実行できる人材を育成してい

くという、先生方の学生への育成指導に対する真摯な姿勢と熱意を感じ取ることができた。引き続き、社会及び関連業界等のニーズに適合した優秀な職業人の育成を目指して、これらの取り組みの中で見つかった課題への解決にむけて、より具体的な対策案を立案・実施していくことを期待する。

基準2 学校運営

運営方針を定型的な文書としては定めたものはないとされているが、理事長等の運営方針などについては適時に教職員に伝えられている。また、学校運営に関する諸規定は整備されており、事業計画は明文化されて全教職員へ周知徹底されており、歴史ある学校法人として組織的運営が適切に行われている。また、意思決定システムについては明確に確立されている。

人事・給与制度については、引き続き良質な教員を確保するための処遇改善を期待する。情報システムについては、費用対効果に配慮しつつ、社会全体として ICT 環境整備が進んでいる中で引き続き適切な対応を図るよう期待する。

基準3 教育活動

理念・目的・育成人材像に沿って教育課程の編成が行われ、計画的な教育活動が行われている。また、卒業時に幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の二つの資格を取得することを踏まえ、社会及び関係業界等の人材ニーズに沿った教育活動を行っていることが窺える。卒業生が、就職先において高い評価を受けていることは、学校の教育活動の成果として大いに評価できる。

また、資格要件を備えた教員を確保することの重要性を認識し、学会、研究会等への参加を奨励し、研究紀要を作成するなど、教員の資質向上への取り組みを積極的に行っている。

なお、ICT の教育環境に関しての自己評価報告書の記述では具体的な状況は明確となっていないので表現に工夫が必要と認められる。今後とも ICT の教育環境の一層の改善を図り、学生の ITC リテラシーの増進に資するよう努めていただきたい。

基準4 学修成果

卒業生全員が資格・免許を取得し、就職率は、100%となっているなどの状況は、良好な学修成果の帰結として大いに評価できる。

また、卒業生の社会的評価（卒業生の就職先の評判など）を整理、分析して、その結果を教育活動の改善に取り組むとする姿勢も意欲的であり、大いに評価できる。

基準5 学生支援

校風として家族的であり、学生を大事にしていることが見て取れる。学生の健康管理は引き続き重要な課題となっているが、このことを十分に認識して適切な対策を整えていることは評価できる。なお、本校の、直接の授業を重視する理念は素晴らしく、高く評価されるべきものと思料されるが、一方でコロナウィルス等の感染症が完全に終息したわけではないので、今後とも万全の体制を継続していただきたい。

未だ各種の感染症のおそれに伴う影響により、課外活動としてのボランティア活動に未だ制約が生じている状況が続いているのはやむを得ないが、本校のボランティア活動は高い評価を受けているとのことなので、状況が改善するようなら、すみやかに実施されることを期待する。

中途退学率の低減に関し、保護者との連携を密にするなどに加え、臨床心理士に依頼できる体制を整えるなどきめ細かく支援体制を強化している努力は高く評価する。先生方の説明からは、何よりも学生に寄り添う姿勢がみてとれる。今後とも更なる工夫を期待する。また、入学後に進路上のミスマッチに気づく学生に対する支援の在り方について、引き続き検討されたい。

基準6 教育環境

施設面・設備面については、全般的に美しく清潔な環境が維持されていることは特筆に値し、高く評価する。施設等のメンテナンス体制も整備されており、施設・設備等は有効に機能している。なお、図書室の整備に関して子どものための児童文化財及び保育関係専門書の補充に努めているとのことなので、自己評価報告書により具体的にしても良いのではないかと。

基準7 学生の募集と受入れ

ホームページを充実させ、学校案内（パンフレット）の見直しなど学生募集活動は適切に実施されており、全体的な募集環境が厳しい中でいろいろと工夫、努力がなされていることは確認でき、一定の成果も見られていることは高く評価する。しかし、ここ数年、定員割れが続いていることも事実なので、その原因を分析し、課題を抽出して改善に取り組むことは大事であると思料される。引き続き努力されることを期待する。学納金の額は妥当と思われる。

基準8 財務

学園全体の財務基盤は安定している。ただし、保育専門学校単体での収支はマイナスとのことなので、経常費補助金のある大学等と異なり、学生の納付金が収入の主体である本学校の特性からみても学生の確保は喫緊の課題だと思料される。学校側の課題に取り組む姿勢は高く評価するが、引き続き、課題の把握、解決に向けた努力を期待する。

基準9 法令等の遵守

常に、関係法令に関する最新の情報をチェックし、それに合わせた校内の諸規則を遵守しつつ、必要な改定を行うなどの取り組みが行われている。また、ホームページを充実し、必要な情報を公開するなど状況に即した対応が図られている。

引き続き、法令等を遵守し、適正な学校運営に取り組んでいただきたい。

基準10 社会貢献・地域貢献

本年度は、これまでの子育て支援新聞の発行に加えて、自治体の主催する子育てフェスタにブース参加するなど、学校の教育的資源を通して、社会貢献、地域貢献に努力していることは大いに評価できる。有意義な活動を続けていることが周知されれば学生募集にも良い影響があると思料されるので、積極的にホームページ・SNS等でその取組を紹介するなど、引き続き、対外的な認知に関し、一層の工夫に努めることを期待する。

以上